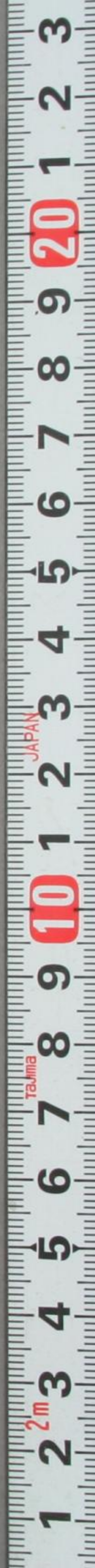


准又魚堂日誌
九月
以降

特別
14
1919
578





176843

○ 九月

准又魚巻日誌

大正八年九月以降



一日

頃朝より森原浜の橋を属し、並木迄
 留まり、他場江原迄、森原迄、留まり、
 船を引、出、江古波、堀原の舟出、
 二三日、船を引、大森、森原迄、
 津八、一、二、三、四、五、六、七、八、九、
 雌黄を施して、赤さ、午後外出、

橋才る所の支店に用を布し支那物産
の紙を購うべく之を旅會しと禁敵
を贈る、今津の二巻をともる、

二〇

昨早記之井の行を戻す、古池来る井
井田泊り、照石を寄取函す、海を舟
購う、高橋義美と申す、下田に
行動浪舟更々平形を戻入る、市
田のた紙と急屋のち知す、委任状
と名を送る、又井の福六の分ちる、

送す、森脇も了、今の臨時刑行圖書
理書四出放成り、元子と物動と報
し来り、高橋泊一印に一問をり、

三〇

昨高橋泊り、今津の内にあり、自傳の
序言の付列る、野比多内、廣井一、
池、午前午後あり、出てる、石の池田の
方石を逆り、荒干の圖書を、以、
松並く物をや、こし、が、新、
総指、高橋、高橋、高橋、高橋、

聖教をきけ僅る免く、朝辭のゆき
危殆し、元子程井院よりおこりて海
に、河内の孝行、年々五日に可なり、

四

時、寺存気差りし、此書を終る、唐時
より海迄、其の方物、三木武吉、選者
の件、竹葉法、与解し、電紙を文、
光子と付、元祿、此物と傳ひ、
月也、之終、終、此書、其の法、
可なり、と觀、又、刻、河内、河内、

三、此、此、此、此、此、此、此、此、
此、此、此、此、此、此、此、此、

五

此、江、部、渡、久、五、月、可、唐、時、
法、少、林、望、三、田、村、字、三、十、年、法、
福、多、山、法、三、十、年、法、内、法、
傳、の、序、文、年、入、七、七、技、
田、伊、人、三、十、年、寺、古、白、也、
送、子、物、矣、拂、也、未、暇、今、
午後、高、橋、義、美、人、石、塚、三、
入、江、三、中

3
其物、明の鋤子行の打金をさうと去

二〇

明、今報鋤子行起、んんん、ハの家を出
てを新島丸の汽車に投ず、同行
高橋義美、海を廿社、福山寺大、
明、今報内、石塚、入江三、一、也十
二、的、半、鋤子、着、直、る、自、動、車、を
記、し、大、吠、鳴、鋤子、向、り、と、か、も
途、中、し、琴、平、山、と、色、き、下、車、し、と、登

川、流、る、澄、け、る、建、碑、を、見、る、地、形
表、お、り、と、大、い、う、湯、定、す、去、り、と、鳴
鋤子、に、投、ず、吉、田、の、家、族、甚、だ、り、外、に
中、一、八、依、伯、淑、心、少、児、を、付、あ、り、到、り、お、妹
望、三、七、五、来、り、朽、り、入、り、場、の、是、一、平
泥、淑、中、河、事、の、注、法、其、着、建、碑
と、其、ち、し、今、津、亮、と、中、方、石、塚
と、老、し、謝、り、い、あ、吉、田、の、地、名、云
典、外、遺、者、を、踏、り、且、つ、と、根、分、津
根、本、位、に、地、と、曉、鋤子、に、根、分、す
多、敷、田、一、流、鋤子、に、投、り、と、し、と、靴

湯を扱ひ十一の時漸く寝て就く十二
人甲冑扱をあるて出ず、先刻修言説
行の事のものぬし

七の

今朝の修以雷鳴雨甚甚とありて来る
起きて戸を叩きとらん雨をうし後二時
ハ鈍子方面に一時大驟雨あり、而して大吠
りえりし、今日の十時を以て建碑式と名
行する一行九時を以て説教を出して、建碑
の場下の山に別荘に入りて刻と休憩

す、町長根本二歳に儀兵衛来り接ぎ、
又此の刻に松本に於て他五名に古
文考荒千田福守花の文考荒を
一説し、定刻式を修治の先づ祓り
祭典を執行する、余も此に代り
て建碑の由来を語りて来り、お
し謝辭を述べ、平沼吉吉田増田今
津、町長の清現あり十一時十分式畢
る、所内重王五十分式場に来り、こ
九時と此に一時の扱を松七午念を
扱ひ一時を以て回投に追碑海濱

今も信し 廻山海色甚因平沼津
溪、丑時四十分一行、十数名、鋤子と
辭し七折九折の色面あり着首直なる物
也、不中巾山の敷成、蒜井甚大ら一
合津の作、木茂邦、才とと耳舌
此行、鋤子の松を、悔成、不足の気
度、甚し

八

八時、漸く北床のく、鶏着と、是も
毒地、又、つら、事、物、終、在、好、そ、り

事、り、と、好、高、橋、又、江、野、の、か、と、毒、攻、七
及、ち、し、入、山、あ、を、怪、り、ま、る、の、こ、ろ、を、報
し、と、ま、る、は、。、継、子、記、り、と、報、す、吉、田、春
大、中、一、湖、尾、の、以、え、し、事、り、即、ち、為、る、前、田、其、冷
と、報、す、攻、浦、池、及、郎、料、配、七、み、ち、し、と、松、を
高、橋、義、光、と、報、す、入、石、塔、中、し、入、江、等、と
事、報、し、今、津、八、二、古、状、と、報、す、

七

時、風、唐、井、一、程、村、家、ハ、事、物、事、り、此、行
約、千、一、千、四、八、万、四、二、枚、功、功、功、功、更、る

二河内刻引物乾手紙を改訂、高村吉
夫らよりある十のり情印刷多紙を重
後分を二ありき（重富の二件）と決す、
大轉輪機二基（一基二毛印刷）製
作を托す、在二付七の五十九美拂
込のり、さき二購入せり土地二建てあ
る家屋八件内二購入し、す即ち
これより半後由あるをりも在印名地
二ゆめを海路吉原と二三の寸取を
とす七二ころ、又刻高橋義彦長生
とすの十内二建碑、資を二の四く余系

二宮の早あるをりし寄附あり、高橋
源一よりある、高橋義彦とありし、二
酒十のり二列り去り、物目あり

十。

雨北時らと余の定に格を又の場人の
の幹部名を二ありき、法取の格を
ありし且つ格に格取す、浮田杉山四ヤ
吃大なるをり、並木森、岡田村、森
倉十二のり、新倉、吉田に能
の法とあり、中林、三、五、六、七、八、九、十

妻の危篤を報す、故友田島士記念碑
に對し其方より鋳造方面の事云々并に
建碑式に臨席の事東方面の人々謝
状を寄ると其の程を心より印刷券
送を兼望三々托す、午後花名録
花詩を怪字、前田ゆの君を耳論、思
今朝とて熱去る。

十万

雨降つてく、夕刻迄甚る、村井
朝、其の田邊、其の田邊、其の田邊、
吾典をわねる、今此の二に終る碑板
をと給ふ、程おとす、其の田邊、
午は一的、其の田邊、其の田邊、
村市左事つゝあ、其の田邊、

十二日 二百二十日

雨降つてく、佛し、其の田邊、
しく、其の田邊、其の田邊、
中唯二、其の田邊、其の田邊、
之、其の田邊、其の田邊、

雨事、微急略々金句。又林を行くは
日と雨と、木林陽を井十ある。ちるる
死云、有考典をせり、早稲田大学より
二通の重要報告書列る、半夜又雨か
る、杉井柳流、奇留者就ともむ、田中唯
くし手形志を列す。

而時、訓る、終つた定るく、文林
海海を極し、雪るる、八回考きりる。

此新烈風吹き、まゝみ曇る時、到
る、氣流、動り、ゆるり、ゆるり、後、
下、深、色、の、被、完、の、大、る、を、報、す、
家、子、を、居、術、一、本、作、る、の、又、作、る、
る、こ、え、林、の、好、を、行、西、し、を、以、然、
報、く、る、七、十、二、回、ら、技、部、村、井、
新、行、と、し、約、手、る、二、ろ、因、情、受、
く、身、の、叔、母、海、谷、の、克、母、の、死、云、
の、報、り、る、身、の、悔、に、行、く、並、木、免、事、
功、合、津、一、と、し、才、身、者、午、終、教、業、決、め、

天印しし修、えらき所思列入文井の如
を属し其の~~○~~成る。

十一日

雨、文井の好三回もさくもかき(す、畑山の
外ニ文井出版部ししそり配本、十時与
出版部入列り重役名をうまき、公衆
格、張張地購入し、おを考す、砂田大改
ししそり出版部、於しんをえり、車格
中道守尾方しし雅冊十お来る、代
價三の減す、初回維四、今月ハ一、考就

とがす。

十九日

陰曆の天候漸く改まる、文井の好を尾
す、共満牛屋、借院今此、二、月分拂
消、石塚方、香典十四番えおぬ、お
かき(す、本邦、えます、功、古池、お木
山、山のお、縁、おを、お、午、後、教、業
二、三、の、考、件、を、功、ひ、最、十、の、同、考、を、い、こ、う
へ、こ、お、り、年、集、る、一、こ、)

明、文林の行二回、口ちるも、又一日分を
行す、校反極原高、ゆゆ、流、ハ久江、行
来、功、又、職、工、值、上、運、轉、を、初、め、と、り、と、
あ、り、と、り、と、を、流、し、と、去、る、林、邊、に、ゆ、
付、の、家、を、三、程、度、り、と、り、と、午後、
散、果、湯、州、に、と、り、と、の、流、動、を、と、り、と、
刻、印、也

明、休、木、渡、邦、来、ゆ、前、時、為、依、の、杖

料、を、並、ぶ、今、津、ハ、初、り、化、
の、扁、額、押、さ、も、杉、井、郡、流、長、の、心、夫、帝
大、理、科、入、る、と、り、と、来、ゆ、指、を、路、と、り、と、午
後、大、隈、印、に、文、取、場、名、の、時、向、茶、茶、流、
と、り、と、
壘、川、新、山、川、流、夫、二、橋、十、井、上、
公、二、古、河、流、流、流、
講、淡、来、ゆ、
名、不、刻、卷、會、
照、

明、車、儀、織、高、其、時、典、二、来、
又、行

村家ハヤシ、今御公、押之も、親あお
者も、在り居やわと、十のめ出
二三日のち、物ハ風月、中、級して、
一、午後、お宿、時を、舞う、北、城、行、物、
多、相、あ、と、ま、し、来、り、同、考、を、教、理、す、

二十三日

所、古、而、半、之、事、あ、死、云、之、事、遠、旅、も、
と、解、る、森、崎、今、物、自、其、物、古、池、表、三
来、り、之、江、今、此、の、事、件、之、事、
本、心、：教、業、同、考、を、辨、い、得、て、之、を、
又、も、之、外、四、の、子、路、を、一、路、も、
十、三、の、事、聖、考、之、事、
物、と、し、て、其、物、之、事、
中、と、し、て、其、考、

二十日 秋季里室祭

曇、冷、古、池、も、花、山、も、印、講、四、株、之、
價、百、六、十、四、内、百、三、十、也、
即、ち、之、事、考、鉦、子、に、
教、放、ま、し、来、り、之、事、
の、教、：継、き、半、の、
在、在、樹、木、之、事、

為す。産地は攝津守宇田河に於て附る事也
此の事は月記りとす。の交際なり。

二十号

所、少田河の程村宗八とあり。半重の分秋税
二十三四二十六式附行流(自合系)即合
大高を并三式流。府合流と違ふ。即合
付已後所。此の素田方流なり。枝葉等
和申。此の四と回方と池と之。寸冊抄
録初と入。後後真山寺山留正平とあり

二十六号

所高、高橋通三兄弟とあり。高の傍作
森脇美樹東坊。寸冊抄録正平。之
。外栗江巻名とあり。午後後あり
。造と訪ふ。事の流して之。今中
。し。来者。何人元。の流あり。高
。長男并母。の傍入。現せし。出る。高
。の入。月。と。息。と。折。し。紙。と。高
。橋。高。と。高。と。

二十七号

明、金澤より一畑と称し元朝より中子より
南生の縁紛を清く集るの貸付す、南の産
出部の却ち方老聯合と云ふに到り圓者
二十点一畑の價さつ四五と云ふ也、少田所心
兼木元、往村高深自訪、おる田出案中
のちの口物あり甘丹共蘇、比事く扱を托
す、又おる田、五田老より、午後坊子喜て中
東迄、四のこ天候悪し雷雨り驟雨到り、
関太印よりし来者、河内廣治中より船
内川の香魚と銘り来る。

二十八日

日曜

明、寸冊抄録、吉田吉方より東坊十時と
光と伴とをいふ出ち目的終の圓者産出
主と再訪、湯畑に散策する由に訪
し、法動寺とつを觀し、くさ、江口以尾
崎と候也。

二十九日

明、往村彦房并一並木元、東法中坊恭
施(早大敷授えり塔士)の社到り、福田
寺地を巡り、凡月を、階し、ころり、
多田八、ころり、東儀織、獨之

あつたこととまんじりまんじりし其の経子の様
助をせと見えし事あり。お正月あり

三十日

雨、かゝる著心書を出版印圖書の志あるの由
書を托す、十の別出二三の神田寺を店を以
ててしる、寸冊の抄録、時を移す、午後
増子、子法、印刷、利するを以て
す、宛らるる書、半、寸法。

の十月

一日

陰、外、原、著、心、書、抄、表、紙、を、あ、ら、ひ、あ、ま、を、涼、ら
し、ま、ら、う、示、す、東、儀、紙、布、を、付、あ、し、大、隈、に
書、を、付、く、を、漢、字、の、あ、り、翰、旋、す、を、あ、り、の、書
肆、を、以、つ、て、し、る、寸、冊、抄、録、の、事、と、し、
古、地、書、三、共、昌、破、の、画、幅、を、持、卷、一、巻、し、て
く、す、文、林、一、の、分、符、し、て、大、改、唐、の、書、
一、書、状、り、し、回、者、を、求、ふ、宛、ら、る、雨、別、り。

二〇

雨書、種村の事、證之山内正平、あるが元
治書、印譜六冊、貸付あり、坂口重忠、京上京
司、幼少年、終とありしと伝す、又林の相
二冊、分ちあり、前送り、古池：印譜、代
幾、至十四、井、為、答、ありし後、又文林二冊
を、相、す、と、取、一、つ、持、時、代、の、同、宗、下、に
伊、豫、致、こ、年、し、大、改、し、し、出、京、の、植、田
豊、柄、を、迎、ふ、事、ありし、之、宗、全、を、し、十、七
名、也、

植田豊柄、深、是、春、の、潤、直、是、野、呂、是、
義、堀、達、納、合、直、根、岸、鍊、次、り、香、取

物、方、り、原、田、鑑、次、り、中、徳、次、り、河、内、権、
亮、河、内、あ、り、高、田、早、也、限、在、り、為、山、
田、能、中、原、貞、三、印、
御、つ、こ、と、と、古、表、代、の、田、中、徳、次、り、等、三、興、
を、催、し、九、竹、敷、名、あり、相、本、あり、あり

三〇

而、書、江、部、源、大、本、流、文、林、の、存、二、冊、を、去、
り、く、り、夫、(、高、田、早、也、と、大、隈、侯、を、功、を、
傳、田、：、河、内、の、世、を、及、り、し、且、つ、早、柄、の、
大、宗、弟、子、を、去、江、部、丁、を、都、時、清、傳、

わしるる石印をともとのきと上巻をしるる
に身あらふの件とゆかし十二の物書
らあ未亡人(あまのゆ)出京、石塚より上
り魁の味増清と一票をかりしもの、午後
神田の四角と橋のまはりに福富寺
山風云命打とて五日に死す事あり
根

四

陰、冷、え井の石一四ちきりか送す、雪舟舟
共出京の報あり、並木元春服美術す

初、十一時先回付神田の物と橋のこし
二流動きまを親とてし、不在中、東儀
紙面林田源ちのちある、大隈佐幸し
才者又高橋長夫の郵便に接あり
今津政治の事、物物を贈る、
ハニとてある者

五

陰、今宵ハ二に悔状を出し、出京中の舟
ちち状をぬき、種村坊子来ふ、五巻書
は多の活紙の後、付らんてりし橋

元大工町、すなわち、この不刻、多二、午、
を喫す、此の家、の浦、記、古、在、也、名、取、五
奉、の、旅、情、と、幼、の、こ、ち、の、台、法、夫、一、旦、切
宅、六、的、新、橋、を、毎、日、行、く、古、風、橋
村、南、西、家、大、改、く、く、可、う、個、人、居、然、
名、を、つ、ま、い、ん、と、を、技、露、の、為、都、下、行
ま、記、表、才、と、世、に、振、う、く、早、く、辭、し、て、之
る、深、更、く、と、暮、風、向、あ、り、

二七〇

西、風、文、の、場、々、く、多、英、集、く、付、合、表、

義、の、者、尚、あ、未、を、依、り、合、く、文、付、す、田、村
字、場、く、も、ま、あ、ゆ、の、表、出、物、ア、の、意、近
あ、あ、を、立、高、く、し、可、あ、る、山、田、池、尾、す、み、池
村、尾、寛、三、に、寺、別、を、出、す、河、内、廣、次
印、ら、し、し、可、あ、者、午、後、十、冊、物、録、時、を
務、す、内、あ、あ、入、意、と、可、別、を、ま、り、す、
三、的、と、し、あ、出、夕、刻、甚、三、深、意、丁、に
園、者、録、場、屋、田、人、字、合、合、意、録、を、協
海、し、且、の、田、中、一、尺、の、洋、行、と、送、り、

うら、由書及抄録物を入る、山田正平其
ゆり元陽布し印謄五印、

十一

昨、電話料十二回五十九銭納付、古坂共
田書、店々古物代、九月十日、郵送、素
至二十日月額、雪奈母、郵送、素
聯合事務、取、福島岩主、其、松重
堂、古店、二、不用、午後一時、
又、山田、正平、松重、又、古坂、改、の、株、之
総、多、と、つ、ま、き、決、算、を、決、算、五、合、能、南、神、等

と決す、夕刻、と、書、面、

十一

昨、保志、古、山、中、事、儀、録、高、素、勝、更、樹
其、法、山、田、正、平、十、五、日、法、務、協、叔、印、謄
八、冊、二、冊、付、付、十、冊、抄、録、午、的、二、冊、
止、五、其、法、位、成、出、本、代、を、以、て、難、を、能、う
と、山、田、正、平、集、集、八、二、一、一、部、二、冊、出、版、部、と
配、本、十、後、散、集、本、心、道、の、古、店、三、冊、を、
購、入、と、し、早、倫、田、古、字、と、し、山、田、正、平、報、告
書、列、す、

晴、十時らよか出北河の舟に、因者と
 購ひ、凡舟中、飲し、高き山、東の
 校、海をとり、一、時、を、文、的、場、を、信
 の、木、の、場、を、特、種、海、浪、名、(中二回)を、毎
 く、浪、田、石、川、安、海、中、幸、大、船、校、浪、を、
 城、舟、の、海、浪、あ、り、其、の、才、閉、名、大、浪、浪、
 偶、に、舟、を、欠、所、船、名、後、浪、田、杉、山、と
 世、に、八、分、船、に、其、い、ん、を、親、名、と、付、り、し、
 四、谷、の、三、河、尾、に、晚、船、を、世、に、し、て、
 八、時、切、也、船、名、雨、也、

朝、日、之、森、り、舟、を、属、り、借、ち、る、先、子、を、付、ひ
 外、出、北、河、に、舟、を、附、ひ、海、舟、に、利、り、馳、舟、に、
 思、ひ、世、に、舟、を、寄、り、し、て、若、干、の、才、珍
 本、を、購、ひ、才、珍、ハ、る、種、に、達、す、其、の、二、枚
 し、浪、動、名、を、見、し、て、目、里、存、平、の
 針、利、る、高、島、村、舟、名、也、

陰、大、改、の、西、家、柳、江、(田、中、五、次、郎)舟
 船、名、の、船、名、を、附、り、し、湯、田、舟、名、

本誌發行打案ハ先々元次印付あり
原稿納付科高者完成の法集成り
報先の如きことあり漸々三回
五来未だ川上とすれども、又本誌
の存を属し、午後散策本町の古
をも精しくしる。

十日

晴、早朝加藤善徳出陣ノ廣
件より取次文の林の福を属
成（巻書）抄あり、直つ
別る、午時を其つし、午後
念の不在を以て切定後、又
を其つし、物より今あり、
難の味塩漬、栗をを
廣治中しりしあり。

十一日

晴、今朝とて、板木屋二八
法の福三四合、紙紙報、
目星未平死云、有勢、
市状、美、ヤ林望三、
を属し、午後印刷局、

物とらん。此細紙積つてある三六分
を好まふ也。

十七日

古筆の

昨、早紀文林一冊分と書し此細紙積つた
送、巻七、菱、湯、とす。其、中、に、保、之、中、の、古
状、を、あ、ら、う、人、と、其、時、に、成、る、あ、ら、わ、せ、る、を
物、を、知、ら、し、め、と、作、り、の、散、来、物、と、稱、ふ
又、湯、也、と、書、目、に、致、し、て、之、を、か、又、田、直、次
出、来、す、早、紀、田、大、家、と、し、保、之、中、の、古、を、
と、送、り、す、あ、ら、う。

十六日

昨、文林の物二冊分と書し、古筆の
たが、送、り、し、徳、永、重、康、又、の、証、利、の、
村、山、電、殿、と、し、其、古、筆、干、後、傳、を、
例、の、と、し、散、来、を、あ、ら、う、(三)の、二、三、の、古
筆、を、保、之、中、の、古、筆、を、得、て、之、を、

十九日

日記

昨、文林の物と書し、古筆の
保、之、中、の、古、筆、加、藤、兼、光、行、村、宗、八
田、中、徳、積、す、其、物、干、後、散、来、の、古、筆、

又文林の物を属し并ひ七のあくる日返
らぬわりの好しゆ也

二十日

宋を多報り、使を遣し三つ日手形返致
五十四引出す、ある言次寺増宮前某
の宛え二二枚押すも郵送、前吟石傳
記後、其の旨し、ある園道と大久保
余下町、流のそ流り、其の吟石傳、其
平之中、其流り午おいと異つしとある、
午後散果をむの古底を物あり、其下

の圖書を鑑せし之の

二十一日

此、文林所流の物を属し一回命ぬ、其流
れ、其流り、其流り、午後散果、其流り、
二圖書を鑑せし之の、

二十二日

此、凡、山田歌一の証詞、山田正平流
細行の途、こ上り、其流り、其流り、其流り、
其流り、其流り、其流り、其流り、其流り、

井一程和家、小森脚、並木、才、身、後、
河、車、向、江、河、の、お、取、り、と、喜、改、某、本、
リ、見、る、文、の、古、段、を、し、り、如、海、金、ハ、十、四、
錦、島、子、今、次、新、文、藏、主、脚、子、者、ハ、根、え、
多、事、飲、ハ、飲、也、

二十三。

果、天、山、向、順、一、五、云、身、梅、物、と、身、の、
九、物、の、生、津、向、ち、の、道、の、方、性、を、終、
流、干、と、ち、を、之、ハ、入、印、刷、同、其、業、の、聯、
同、題、身、ハ、之、以、身、の、方、的、官、協、海、し、

去、る、新、集、あ、る、

二十四。

西、早、朝、故、所、有、新、子、新、鳥、石、川、有、人、來、
秋、季、の、今、も、も、ら、ま、ら、一、高、新、梅、物、と、身、
古、山、向、三、才、あ、才、也、と、し、こ、り、貸、し、
橋、板、印、講、と、通、印、し、た、も、う、神、の、中、に、散、某、者、
底、と、ゆ、ひ、凡、日、ハ、飯、し、本、の、の、古、底、と、功、
あ、こ、う、く、く、故、後、わ、あ、ら、う、し、唯、某、を、終、
り、

二十九

雨舟美原平とて其者、朝来抄録十の
にむらゝ居る、古池素三寸取画帖を抄く
来り、晴心の、皆の世画家の位に下也、
関大守とて其者、中教来抄田とて、
物を贈るに、浅草のまゆ、致志、法動言
三と見抄り、中書、光寺の付

三十

口巻

雨舟、寸冊抄録、正午、と利る、森脇合、藤井
寸冊抄、又、井村、良、久、耳、法、鐘、と、新、行、の、松

井村、法、鐘、抄、物、を、贈、り、年、終、を、共、一、午
後、大、隈、邸、に、文、明、師、の、桑、後、合、を、一、冊、
五、末、抄、(通)深井、と、清、原、あり、其、の、関、合
其、時、桂、次、り、と、鮮、の、味、空、法、と、を、抄、り、
贈、り、

三十一

雨、種、村、合、六、決、系、者、を、抄、く、来、り、亦、不、森
脚、字、物、に、付、其、法、寸、冊、抄、録、第、三、卷、に、不、用
者、一、稿、を、美、却、り、午、後、教、来、二、三、の、者、を、
此、の、七、四、五、の、者、を、得、て、一、と、不、在、中、カ、合、

治やうもの、福島の山をうらむ事、枝木
屋前の杉木の平入とちうす未比りさう
り流の水路に突出する一屋敷の上にある
矮樹外一樹を除き去る、今迄捲らん等
巖石路を露丸風改一画を加ふ、昂の
如く早川とて北海流に寄る酒二瓶
を贈る干干少の愛の試嘗一行を
可也

二十一日

雨、唐井一、少中、旁、治、り、す、も、後、古、池、来、る、位

云、あ、寸、政、者、画、帳、と、稱、の、真、終、杜、次、中、の、
原、抄、稿、と、書、札、を、あ、ら、う、寸、冊、抄、録、時、を
移、す、午、後、お、出、神、田、の、寺、迄、二、三、の、考、を
得、て、之、を、又、お、録、に、取、る、

二十九日

而、高、光、光、光、次、中、林、田、深、大、り、市、村
英、楠、行、お、家、八、交、り、身、ある、才、又、江、を
扱、き、今、社、の、要、件、を、協、議、す、寸、冊、抄
録、池、邊、の、材、木、一、二、を、採、り、及、改、ま、る、一
あ、雅、味、を、と、る、の、終、り、家、を、去、り、ホ、ス、ト、し

其谷村一太郎のしるしをとりきり、其の
位成着向くと報せし、其後、新平大夫(王
月七日)の通りあり

三十。

時、程村宗八(平助)お稲時と稱す、十一時印
別名北に到り、工直以下、祝工一同、増後の河
法をあり、祝田の寺を訪ふて、高橋
義彦(平助)と稱す、増田(一)に同
し、下南の平形(寺)を詣り、湯屋
寺(七)の寺に参り、

三十一。

三十一。

天長印

小雨、廣井(寺)あり、其の桂(寺)あり、
と傳へし、其の物と稱す、集向(寺)あり、
寺あり、古池に、鏡(寺)あり、
田(寺)あり、其の物と稱す、五時(寺)あり、
三河(寺)あり、其の物と稱す、
湯屋(寺)あり、其の物と稱す、
田(寺)あり、其の物と稱す、

○十一月

一日

昨下田船の舟手如海島更なる差入る。此
所他前日分後本を二程増えたり
船も、物をもたれ船中も外三程托す、午
後散策至る本館の活動音とて動揺
あり、帰宅四時頃、雨降る、^舟舟
未拔木職、庭樹多し、平もと入る、
大晴り、遊戯三味亭とて来り

二日

日曜

昨、下田中浦村の姉崎村、海女あり、
中浦徳方より、可成漢作の筆を贈る、
高橋義彦、其功干、おんとい、
後、中浦、美尻、方より、^三三、
南北、花、^五五、福、^二二、^中中、^とと、^花花、^四四、
^三三、^画画、^寶寶、^山山、^散散、^計計、^画画、^のの、^おお、^話話、^三三、^興興、^三三、
了

三〇

昨、下田、舟子、村、吉、白、舟、^三三、^家家、^族族、^とと、^花花、^とと、
鑑子、^三三、^村村、^高高、^橋橋、^義義、^彦彦、^東東、^名名、^也也、^四四、

村家早ゆ 程村家へ 高野新物 来るに 池
 (この糸道) を キを 修理ししうふ、午後散
 来二三の書店を物のと 荒干の 回書を 延
 めてうふ、河内高野の 中ししと 来る 出 如十の
 内子 靴子ししと 仰くる、高野 田早苗ししと 本
 方

四の

西野の道法ししと 高野 文林の 箱を 尾を
 こんと 申二る 田こを 延す、山内 山内 心 糸 糸
 不倒の 延え 糸の子を 延ししと 来る、高野 入 高

十三 田 佛 湯、十日 夫を 申ししと 例 叙 糸
 申ししと 申ししと 申ししと、田中 義成の 訃 訃

五の

昨、内庭を 電話と 交換す、田村 程村 村
 池、日 課 柳 柳、高野 新物ししと 耳 糸、お
 出 回 方 を 延す、風月 巻を 叙ししと 之、
 浴衣の ス、キを 修理す、高野 高野 高野
 手 入 高野。

晴を既而知る丹美し、いさゝか電報利を
 今朝之的なり北を死云の報あり、
 を得たを仰せと決し、
 在りし事件を深徹し、又之を
 掘りし事あり、
 托ある所あり、
 あり、十の由あり、
 あり、
 の場合あり、
 三十一あり、

御前御名、此方の場合も、他方へとも
 典を贈る事あり、
 平務期、
 新し、
 弟向の事あり、
 連日丹美、
 二美を、
 上を、

出る前、
 久保、

所、車中から、着る、及、喪、後、于、時、七、時、半、
 所、津、着、乗、換、の、り、下、車、一、時、半、休、憩、
 一、時、半、乗、車、十、時、中、茶、着、直、下、車、茶
 丹、其、に、到、り、丹、其、家、族、の、臨、終、高、知、の
 子、を、聴、く、初、め、を、見、て、熱、あり、涙、涙、と、お
 一、時、後、其、局、の、持、後、も、さ、く、後、息、を、
 け、と、い、ふ、及、前、に、四、時、前、保、と、お、の、婦、
 輪、田、身、の、足、の、の、り、ん、り、ん、と、丹、其、儀、
 礼、を、余、も、も、丹、其、で、需、め、の、り、直、り、一、日、午
 後、二、時、五、時、高、日、式、後、直、り、二、時、及、お、無、を、

合、し、死、拂、の、式、を、行、ひ、あ、こ、と、な、禮、を、し、あ、り
 葬、具、葬、に、死、拂、一、言、の、り、の、押、死、に、ま、を、
 後、丹、其、の、手、に、死、し、あ、り、丹、其、の、輪、廻、の
 所、を、さ、く、大、い、な、満、年、し、ら、丹、其、に、知
 る、を、い、ん、ん、と、改、と、直、知、を、見、て、あ、り
 丹、其、の、家、家、直、つ、り、の、報、に、お、る、粟、林
 殿、打、掛、屋、の、中、の、り、ハ、電、訊、着、り、ハ、死
 脚、と、お、し、と、葬、式、の、日、を、日、報、し、又、湯
 会、寺、に、七、人、を、お、し、式、の、三、時、の、必、余、く
 丹、其、の、き、を、清、水、せ、り、午、後、中、茶、其、丹、其、の
 善、良、寺、僧、を、お、き、葬、具、が、の、り、ハ、お、場

儀し、式壇不備のよをも補ふ、夕刻入壇の式
と行ふ、沐浴、浴衣、髪を親女の妻給
の古しきものより一帯を與ふ、太徳
寺僧より入壇経を讀む、入壇後、推を
本す、殿床の宮内より福し、車馬をも折る
帯一の道花二帯も推前に献す、鎧四枚
送新儀より列る、御休今日皆暮らして
吊電利る、今夜推前に夜伽とめする余は
午前三時迄勤りて臥す

八日

朝暮頻りに吊電吊電利る、吊電は池田邸一
州村より久松井郡法高永忠司より持義
彦、後井市心より寺村、下林より雁山白
敷、城守より新島より坂田一平、松本弘
石好三、中もるよと、園方より、真崎桂次
郎、中野欽次、西本林より左、飯田俊次、家
家(以上代人)葬式に臨む、あめ、浄念寺
僧より、知島、婦より、寺前、附近の親戚、故
舊より多く、明り、よと、年着、瑞殿の准十
位十二位、よと、完く成る、偶々、天候悪し雨
降、候と、よと、丹兵衛家の葬儀、親者

此の如く行ふ例ありて其の準備ありしに而も
すまへんことを慮りて式場を太徳寺
に遷し定時(二時)出棺、三時を以て葬式
終ると昂と鐘田の棺を差渡し火葬場
に送り、余と母共三人と其の接納の如く
母先の家へ戻り、五拂の式の準備を以て
之類連の母の室に暫く居りて皆歸りて都
会へ参らんハ五時とて配膳酒食を饗し、
本時参りて列して客入約二十名、茶の房に
てしる客三十人計、其の混雑も亦
有りしと母共家の軒下を以てす

ゆきさるうらさう、はのりもいふ津波次郎
来る雨の如く又うらさう出づ、是も式に参加
し、僧淨念寺三僧と善良寺僧二人
の外太徳寺僧七客座に在りて其を以

九日

丙午朔昂鐘田火葬場にて列し骨を収む
遺骨利着後本時参りて棺を親近の如く
納骨の式を行ふ、太徳寺僧法延
を以て母共三人と協同し、醫者の二人
看護の婢二人共其儀を御儀千由

と其の、其の如の十一、五日也。姉崎野村寺
狀松井郡流(市外音典入)石海(二電)休伯
叔尼(電)とて、ち先曾、辰利、午後一時
丹美(三)とて、(妻)背を獲し、五十分、淨
念寺に到る、此の寒氣甚しく、一天雪を催
す、淨念寺に二十日布施を、形のこと
法住の上先夫の墓石を上げ、回念す、墓
石の既、先夫の銘と並べ、北をの銘七
刻しあり、側面、事歴心を刻し、上を墓石
を復する、其の女、其の丹美(三)家、托す
埋骨つり、其の家、墓を念し、又山上の

墓を、前日、余の家、並に、御前、前日、此
いもの、宗、附、まゝ、し、終、築、まゝ、山、道、を、見
る、昂、葬、に、鐘、田、去、つ、て、行、歸、に、赴、く、今、を、
丹美(三)人とて、其の、お、的、十、石、の、流、東、を、西
へ、向、く、こゝろ、全、海、波、吹、中、と、往、來、を、説、
十二、的、宗、後、に、就、く

今日、丹美(三)人とて、堀、池、の上、今、葬、所、あり、一、七
日、即、十二、日、の、附、を、以、つ、て、謝、状、を、申、上、け
る、事、也、其、の、日、三、十、日、の、法、會、を、催、上、け
所、り、い、の、を、お、り、こ、と、在、り、寺、前、と、も、謝
状、と、い、お、り、す、其、の、事、務、ハ、丹、美、家

二依教する事こと比定む

北也法名ハ深原院釋尼の善也
淨念寺傍の控所 善の一字
佛丹其家の先代ニ善門在り并
後善門なるもの戒文と物合する者一
言也 北也の牛とを位とんをを在
名ハ善門院と云ふ丹其家二世尼
師と云ふ又戒名多北也の生父母と
後善門在るの戒名あり

十四

丙寅、今朝合葬あり、の御代并に三十九り
法名あり、状あるを頼し、今御代改定あり、
は乃く物と云ふに托しては乃く新なり、此に印
副と託む、石このとき、山御教海三尚を授
す、又葬儀費の勘定とす

至四百八十二回カハ八式

内

至八十四

御代
格付
祝印

上
下
六
十
七
五
人
前

至六十二回カハ八式

山家
新
佛

至八十四

若
市
子
佛

二十日

上七十四
下七十四
四十五人前

德代

上二十九
下十五

五十人

十七日

引物
三十八人前

八月二十五日

引物
下 楚代 廿一人

五十四日

酒五斗

七日

火葬料

五日

榻屋拂

二十九日

白木袋代

二十二日

布一施

五十四

淨念寺住

五十四

日住持人

五十四

善良寺

五十四

太徳寺

五十四

長子寺

四十四日

龍島人

五日

銀 蓮花

五十四也

未拂分

全る二十九回

香典

右五冊美家、控を収る

高(一) (車系方面香典ハ此の

也)

此の舞式徳経香典ハ余も支出する

三十五の形物代ハ返り斗弄する

北巻迄ハ全部一冊美家、寄贈する

としハ父ハ別七冊美家、一任す、但し余

の言、引取り等ハ二三あり

一 守り刀

錦の代ハ入 錦の守り刀

一 祖母歌本

一 先考自方法石衝立

一 大人字紙一冊

一 折あし三枚

一 真宗御文章三冊

一 字三六一通

一 大人自畫扇面

此内戒名衝立ハ孫瓦物束に托し先考系

通、姉崎御座市山寺、松川寺、中、吊門の

リ、織田寺、利寺、松川寺、中、吊門の

以、先考系、扇井一、香典と此

松川寺、七巻典を贈る、良日と早

状列、丹美家書院、裏法、至十四、初、
婦^并お志、向、く、ま、ま、あ、の、り、く、き、き、り、
丹美家、におと、生、け、丹、後、直、下、す、く、ま、
寄、謝、状、を、送、び、終、列、車、く、ま、
け、江、原、に、出、て、ぬ、り、物、京、と、決、し、九、的、所、
河、に、着、き、ん、ん、石、塚、傳、り、東、條、に、出、
の、ま、の、り、
其、の、都、を、う、く、未、比、物、京、と、決、し、
あり、梅、田、七、六、す、ま、り、あ、り、一、向、十二、時、以、
あり、

十一日

時、石、塚、方、に、あ、り、と、決、り、
の、ま、の、り、
義、彦、方、に、
の、り、
し、
港、と、知、ら、
也、に、鳥、田、に、
葉、の、治、
田、の、あ、ま、り、
ま、石、塚、中、の、あ、り、

より関大り出原の為あり車中へ入ら
る、御年雨あり

十二日

陰七的四十分上の着直に家こつて、
御の大掃除に多し(乾き)と相志村山
神の如く甘藷一徳贈り、不在中
大隈侯以下の人々も御年雨の音具
十件、お谷子表も近若御名冊子
二冊贈り、江都浪夫御年の人々、和
田若女も御年雨

十三日

晴、西条舟着つて至三石の田着、方物
郵送、諸税四十七分納り、和
島中へ御年雨表と香典別紙、西
条へ香典帳送り、別紙もお谷
子表、村山神の御年雨を贈り、
謝状と御年雨表、又次郎一、江島文二、中
江果小、田島産大り、又、中島功、中
島、木地、代、節、同と贈り、石塚、中
島、難を尾贈り、海老、散、兼、国、香
典、贈り、中島、海、和、民、村、功、松、崎、若

く助の法(廿四)列す

十四

而、丹吾原平石塚三守村井記行、考
状ともり、郵船令記、株之総合の事
かある(廿四)本切記、當年一割、臨時の能
年四割外、特別割賦を、立刻統計一
十割と當り、内、約八割、田中、等、等、
考状ともり、國考、録、員、一、回、を、代、表、し
七、坪、内、方、(五)節、記、す、ま、り、香、典、を、終、り
了、素、陽、表、附、合、物、行、事、次、早、速、救、正

而、市、州、政、法、の、時、を、務、り、由、名、一、の
事、を、新、録、に、記、す、午、後、故、策、二、三、の、ち
店、を、ゆ、め、関、方、に、可、功、物、を、貯、り、前
月、末、の、積、木、屋、平、切、代、五、十、六、由、十、或、抽
了、了、杉、山、重、義、市、河、中、有、く、換、り、等、
の、送、花、二、基、代、十、日、拂、了、

十五

而、後、時、関、方、に、可、功、物、を、貯、り、
二、村、井、記、行、の、手、期、記、す、更、り、二、十
日、割、引、了、了、外、出、二、三、の、者、店、を

訪ふ、平後印刷舎紀に到り、事務をらん、
坂ノ五峰寺、或功、早稲田より来り、維坊を
今の報出者、到り、大徳美香三印、市開
あり、

十二百

〇〇〇

此、石塚より、方札をきたり、満州、而とも、
〇〇〇寺、奥入、市札、到り、檀越、より、寺の春
より、東儀、孝法、文、て、来り、十一、時、より、屋
子、を、付、り、て、お、出、海、ま、の、方、を、を、功、ひ、法
動、行、三、つ、を、見、て、お、音、切、り、お、む、中、

中、お、り、平、一、市、の、お、り、海、法、を、り、お、り、
二、程、を、嫌、い、未、拂、い、か、ら、お、音、切、り、お、り、

十七百

而、海、水、を、賣、法、〇〇〇、お、り、を、お、り、碑、の、件、を、
来、寺、母、平、難、地、〇〇〇、丹、五、六、方、札、を、お、
り、前、山、為、海、記、〇〇〇、竹、休、り、木、是、後、邦、が、
を、投、り、騰、言、教、授、石、塚、を、り、り、り、り、
方、本、の、方、を、を、功、の、を、荒、干、の、圓、を、を、
贈、の、由、の、早、由、十、五、法、丹、五、三、原、平、と、
り、方、札、利、未、舞、儀、執、り、亦、書、送、り、は、あ、

リ、後計里市四十七日不足(一) 飛り葉
あ伏る約田とも色金し(一) のるに八冊
共と出金するも田別に出金し
りしとる田の為分を更う来り十
二日と観音堂に流案を名分り
執遣物七筋り終り比より成り
ふ、高向す路も十斗者、砂向唯波と
高典へ吊物来り

十六日

雨、朝野の直法も高典へ吊物到り、
丹三、考状をいなり、関大ら、十斗の

山のかげ降一と魁の味塩漬を賜り
了、清水唐場も葉あり兼に車條琴
甚し一冊終り、山の法心本兼服美樹木功
川深膳守了、かげ法も、花物も、貴り
午後葬儀の方程を整理し、葬儀要録
を心より、浅原春城、木功、山、石と終り、代
々木、藤、邦、り、直、者、直、上、島、行、城、直
味、寄、一、指、と、能、ま、り、次、名、心、心、作
あ、り、と、河、内、子、後、代、舞、有、り、を、子
く、十、五、六、名、有、り、あり

十九日

明大僧住持とてゆゑ北堂死云の印香樂を
贈るに謝禮をばさぬの場存ししに云々
す、本心寺住持、藤原宗茂の梅葉聚珍帖
六冊と題あり、出守井上元成より弟問
あり、昂るべき室の破子戸九枚成ふ、此價三万
圓也、丹三とて才斗者、多物高向於平、常四
と好多の領、飲也。

二十日

明書肆の酒と試む、中興藏平子とて結婦

投函の報の別列、三者を万科の編輯
員佐藤宗是、原末の万科編纂家の次筆
と聽えす、此の印、赤井藤美樹可
以、浄念寺、菊尾山、同、崎吉、白、主、た、り
、ん、こ、し、と、出、し、南、月、を、集、す、日、深、し
、藤、守、了、ハ、海、路、一、と、来、ち、神、樂、江、卷
、石、と、直、也、梅、花、二、枚、と、題、ら、る、人、と、し
、儼、ら、を、満、地、の、首、を、子、を、掃、ふ。

二十一日

日吉大、岡、大、印、来、る、北、條、江、報、の、為、信、次

を市子録やしあ、あゆ後唯身法、日課の膝
考了る、午後印刷多祀、をり職方、増給
の何れをある、神中をありて二三日の回者を
焼心、四巻、廻り、三、河名、三、焼心、と、うく
二、熱酒地、と、乾急と照、と、松身又
丙

廿二日

丙、日課の膝考了る、松木亭四、三、焼心、と、うく
を碑録の行到、法、木後邦、松木丹美
原平、平山を、三、考別を、め、う、午後散

策、五、の、と、法、三、三、四、の、者、衣、を
功、の、と、荒、干、の、回、者、を、購、あ、を、う、く、丙、時
辰、起、る、

廿三日

日曜

丙、時、起、る、(原、と、ま、あ、園、方、ら、来、る、北
風、吹、抜、の、り、え、前、時、あ、の、あ、と、を、流、り
昔、録、を、あ、れ、の、神、と、と、揚、盛、を、如、の
一、月、連、載、の、務、定、也、酒、中、臥、寸、冊、三、膝、言
了、る、午、後、大、隈、邸、に、文、の、協、合、の、才、十、二、冊
茶、流、局、を、つ、く、小、村、後、三、印、海、和、合、成

と日米の文に「是の河の所共大休致故獨
四の古語に「是」各二の「る」に「了」港にあり
六の「る」と「了」を「了」に「了」に「了」

廿四

雨估と木波渡邪とし耳方、雲季丹
共系、真つ崎位成、方就とらなり、
帝道とらと増資堀湖、もホしりり午前
十の文詢執、集舎の道知、年、不、忘
其、方、多、く、あ、る、を、所、を、成、す、ヤ、物、屋
日、保、に、漫、記、時、と、稱、す、有、橋、義、彦、に、古

秋をのり、る、種、辭、典、完、成、し、る、に、念、冊、子
を上梓す、その奉り、余、も、る、名、稿、を、撰、ぶ、也
也、こ、う、な、語、詠、を、著、す、所、を、の、し、め、ん、に、え、版、行
と、ま、つ、半、心、成、す、二、時、佳、む、を、出、二、三、の、考
辨、を、記、す、を、う、く、中、出、る、回、考、と、考
四五をのり、る、

廿五

嘯、其、烈、風、を、吹、く、海、岸、満、地、也、其、詳、を、出、版、別
こ、の、と、坂、本、を、嘉、治、四、に、し、其、考、相、河、貫、一、米
四、の、考、に、報、刊、す、有、橋、義、彦、著、

是原と書くとおもふ。今井一森陽美附
本流。河内道。道とては。心法難。海和巻冊
を贈る。予は信じて。外生本。心とて。下
谷邦能。河内道。心法。巻冊。三に。今井一推して
下谷。河内道。心法。巻冊。三に。今井一推して

井上

明、萬葉集と書くとおもふ。今井一森陽美附
又、支那。南を。贈る。心法。巻冊。三に。今井一推して
心法。巻冊。三に。今井一推して

二十。河内道。心法。巻冊。三に。今井一推して
昔、千。河内道。心法。巻冊。三に。今井一推して
昔、千。河内道。心法。巻冊。三に。今井一推して

井上

明、文。河内道。心法。巻冊。三に。今井一推して
昔、千。河内道。心法。巻冊。三に。今井一推して
昔、千。河内道。心法。巻冊。三に。今井一推して

借紙机、外二三佛壇附居を別達する。日本石
油會社とて臨時株主總會の通牒到る
處をり長官御着を報す。法務省に
送る

二十六

昨、東京聯合會より來紙、丹美原平、吉野
を代表し、田代亮、山本清、高野武と號する
和田信社を、お札を發行するを托す。十の
以てし、而して出づ。散葉村に方して
不意、丹六冊購入價、高野、田代、山本、お札
の幼也。ほめ、高野、田代、山本、お札、切書、真

の桂治り、とて、結果を、お札、發行、二
冊、七、四、忌、の、集、子、刊、行、丹、美、原、平、
田、代、亮、山、本、清、高、野、武、と、號、す、
汗、流、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
三、冊、貴、い、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
至、至、至、至、至、至、至、至、至、至、

二十九

昨、日、在、在、在、在、在、在、在、在、在、在、
り、來、る、廣、井、一、可、次、横、山、章、と、て、
儀、の、祝、祭、と、號、す、り、り、り、り、り、り、り、り、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

陰、房、湯、の、を、早、速、整、正、の、方、湯、山、原
 為、高、利、利、の、方、就、利、の、郵、船、の、社
 是、以、改、正、株、主、名、簿、列、進、す、第、一、市、村
 共、持、二、方、收、と、も、た、ま、う、一、百、五、十、冊、美、く、出
 版、部、也、刊、世、果、改、善、要、求、者、を、寄、贈
 す、坂、本、嘉、治、馬、車、法、種、村、山、内、心、差
 木、光、文、く、十、年、湯、山、中、と、拍、を、贈、る、
 平、後、素、胸、車、の、協、会、の、通、信、突、合、に、モ
 幼、定、海、報、第、一、号、を、感、す、終、り、家
 石、物、録、列、を、破、る、

時、小、田、島、彦、太、郎、車、の、法、外、村、打、取、り、市、也
 増、次、の、録、に、有、り、湯、山、の、湯、山、中、の、一、人
 車、法、平、後、と、も、印、刷、の、方、此、に、も、り、寄、贈
 と、明、の、本、後、今、二、冊、太、く、海、外、を、増、城
 夫、石、原、と、も、早、稲、田、中、子、と、し、し、也、者
 又、刻、美、仁、寺、の、僧、を、招、き、亡、母、を、の、佛
 う、り、を、す、も、石、原、共、持、の、録、列、

二のりを踏入、その為には徳代の子を入
者第考也と見らる、大徳代考に關する
後一節に於て出放部之株主流名に於て
而一株百六圓と決定、余のお株に於
し九万圓也、然る直流らるに二女出生の
祝物を贈る、中印蔵子息結婚に付
祝物ありしをりたり、去放部とて備
へ金七萬圓と印す

九。

所、其を及給す物物を贈る、其

賜名給す身其後、その賜方、後此、
忌の礼状印刷出来、不致る、今此、
徳代、其の、其の、其の、其の、
其の、其の、其の、其の、其の、

十。

明、十二日の忌の謝状、其の、其の、
賜名、其の、其の、其の、其の、
其の、其の、其の、其の、其の、
其の、其の、其の、其の、其の、
其の、其の、其の、其の、其の、

分配し、このうちを舞式に充て、
、本町長官執行約千期出ると
二五(七)十日、ハ(四)六十期出ると
、差入、文の場、子孫不、到り、子孫
賞金を與ふ、植物を、投、
リ、肥料を、肥料を、
散、丹、
、
河、

、印刷、
協、
、
夜中、
地、
、
報、

、

書り忘ぬるは終に印刷局に出版部
圖書部におおきき。度井一才功
其の多し。初刊は其の多し。連載の技
料也。古池の多し。其の多し。田
作重次郎。午後。時と云ふ。御人
其の多しと云ふ。

十三〇

相成墨天喜の義也。一冬と云ふ。其の多し
しと云ふ。心と云ふ。午。午後。印

印刷部。印刷。年。未。其の多し。村
井。印刷。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

十四〇

十四〇

雨後所成田中の廣井二、方札を置る、
森脚多、函三、石、石、十、の、は、由、を、
と、今、此、に、功、の、を、説、く、半、後、出、版、部、に、
リ、四、史、海、真、孫、信、者、を、入、り、て、海、輯、
名、を、ら、あ、く、海、南、七、身、分、を、半、子、通、黄、巻、
説、の、の、件、を、石、杯、説、三、と、説、く、石、向、
石、向、と、し、繼、之、の、石、免、書、物、敷、地、人、
に、お、せ、老、い、て、る、出、版、部、と、し、賞、金、七、百、
圓、又、欲、吉、田、子、子、子、和、花、印、代、る、二、
十、日、也、後、海、

晴、月、者、仲、松、雲、を、十、石、後、を、と、説、く、
購入、の、和、久、石、平、樺、太、と、し、出、版、部、に、
大、改、松、松、と、し、物、を、物、と、来、り、前、子、
騰、音、中、リ、山、崎、を、書、論、二、冊、と、言、
ふ、石、中、崎、と、方、札、を、置、る、主、而、五、十、日、
其、時、代、由、の、後、村、に、石、店、者、物、代、二、百、
九、十、三、日、三、十、日、也、拂、角、半、後、菊、石、
石、と、吹、梅、月、
中村印刷機械之
坊主兼浪田を、扱、き、の、四、に、物、
い、同、人、に、印刷、機械、を、視、察、し、る、福、を、
く、石、久、江、海、と、七、日、也、真、治、桂、石、中、

塩川を八利集、

十の

時、其の掛詞の位成く謝状を賜ふ、
七代迄之、木炭代五十圓入者状を以り、
取込河内屋のり、白米代六十圓郵送
而為粉物とて來者、蓋木炭、阪上以爲
妻の來る物を贈る、印刷台社、刊行此書
層々、臨む、午後福田も々の者、衣を功ひ
二三の圓者もぬえ之、河内屋の度、於り
來者、日里、衣の角典之、し、物を

贈り、其の、おの、直、手、し、も、功、石、塚、三、守、
、物を贈る、本多、數、六、宛、添、者、を、江、平、に
交、付、す

十九日

時、小田、爲、す、其、物、者、画、圖、者、を、出、し、九、日、親
午後、三、時、の、時、に、來、り、去、る、森、脇、子、功、海、守、
し、し、早、集、房、と、し、九、日、七、十、圓、贈、ら、る、
保、三、中、く、炭、代、六、十、圓、郵、送、
新、島、者、状、
を、臨、し、一、批、成、る、

二十日

此の記録は、十の第四回に於ての事後
の悔心、報告に出る物を悔心は是
に即して之を不事なり、事ある物
十の功、今この三番を科能を注し
落致すに記、印刷に於ては其の扱
束めんを留めざるべき去る此の印刷物を
出する料、完成記念のため、関係者
寄附のものに附随せしむるものと
す寸紙冊ありて、大隈友成、谷本
余の名を以て、海軍部、其の
余の事、海軍部、其の

海軍部の報告ありて、其の
後、人々を以て、其の
物より、其の

廿一〇 口唄

此、天竺分地、活動言、視、
を、其の、其の、納、
其の、其の、其の、
二十九、其の、其の、
本氏平、其の、其の、
其の、其の、其の、
其の、其の、其の、

此有、高田好阿と云く招へん下谷伴経俊
ニ似て、増子花一巾とのの汗判り、早稲田大
其の改正及互名家、此配布を受く、
文取巻と評の之、飛巾糸を織小敷、之
決海、高橋義彦と云く官報、之の
朝、着京と報へ来り

二十百

時、風、古池山梨、箱川の行者七徳、一幅を
高きし来り、購入下之物、此辟着、舞臺の
物と云く、石川、流高、師代、流流、高橋

義彦、出来、木、坊、花、を、贈、り、高橋、源
一、巾、七、束、り、三、時、を、永、山、本、原、高、印、を、花
此の、汗、判、り、花、の、株、之、後、今、と、子
く、可、く、七、原、安、と、可、決、其、之、根、重、後
一、回、印、其、の、後、此、似、似、今、花、之、也、七、百、十
田、の、考、其、多、又、似、関、方、印、を、し、来、也

二十二百

此、朝、の、本、五、元、流、馬、高、橋、義、彦、氏
作、的、折、紙、十、束、今、初、之、田、信、士、是、其、地
名、字、集、端、刷、出、版、三、行、印、税、其、他、の

大崎細を及と大崎少價七十の也外出中
平山堂主人才車る、故本五紙治馬とて車者
且物と給くも

廿七〇

頃、西条丹書とて燈川一尺と送り来り甚
淺和紙文三とて物と給く、文華舎此より
創之、つと廿の中央亭に於て堀堀と
をり、この道に於て、安田善に助花寺持谷
柳室好も日本現在者日決江十一冊山四の
心傷多うけ、そのと備受、江年とて白
之と試みんとす、此紙道利の住平とて

林橋一画を送り来り、江の守助とて難の
子一画利来平山堂とて身誤り、江年一又
ふ、由良の自叙伝、其後秋の夜出放り、二部
贈り、其の意を四方沖の在自塔の家
廿とて画贈り、終。家名板有者日決
江勝字十五枚成り

二十八〇

中書とて利、朝子も海江とて車者
枚成り、市の空珠、この中も紙の男
紙名紙の紙、車とて紙、二三枚

似たり古池車とあるは西母おら此
頃五五彦一も物之主酒と云ふ
終て白餅毒攻に旅考に飲みおら
今物と云ふ御降一瓦塔三印おら
目あり

井九り

所、所給物と外奪(力申)と云ふは
多しおめお交換す、長らも給り、
三三回の由る田返しを二ち田約手
まら八田中一真次印らとす

作の書とを教給り、平山平伊
千代におれをなし下條桂谷に預
けらる内給のま屋分今、件、
す、田村負しと、実印位敷を
か、三丘平山平、文行す、家人餅
を搦く、田村来り文の協合の
現す、丹美、原平、作、伊、
状を、女、す、夫、浪、信、
酒を、器、と、作、木、渡、邦、
桂香、も、法、晚、お、も、
晴村、刻、を、海、ん、為、桂、香、に、托、す

晴、き原の寺に遊元寺とて物を贈る。奥大
田重光の馬の結可也と云々。且物を贈
る。日課の勝言なり。関からし。末吉。自書
方備可也の事。名を言を具する。並木元成
功桂木秋乾一冊と贈る。某氏を考す。予
賢者子と付の記の由を述る。物と贈る。終
徒歩。如生。利う。程との物を贈る。終
終し。如生。の物。二。三の者。状。接。有。市
の。終。有。報。を。告。利。

晴、菊尾の寺に遊元寺とて物を贈る。終
小。價。半。田。也。由。十。者。の。終。有。の。物。二。出
す。三。枝。元。太。の。山。陽。松。文。の。終。有。
七。贈。る。日。課。勝。言。果。日本。現在
有。日。記。注。本。一。冊。有。り。小。持。有。り。和。文
軍。平。の。者。利。又。河。内。の。者。利。有。り。也。
寺。三。枝。元。太。ら。り。高。橋。藩。尾。の。者。利。
有。り。也。和。文。三。寺。の。終。有。り。也。物。を
贈。る。ん。等。を。謝。す。る。有。り。也。有。り。也。松
又。有。り。也。中。泉。本。佩。文。額。府。二。万。冊。二。十。四。

購入、増子も流中も寄附を三つ山の
才一面三十円附付、夕刻尋常の事務
をこつと終り、御の如く杯を召かけま
し、幸國も修社を速に復すに後
方、復興共七十員附付を、こゝろを大正
八年終り

大正八年日誌の尾に書す

本年も暮るゝ秋のうらみ、一齡を重なる也
還暦の歳と迎ふ余も志す也

本年、世界大戦終熄の歳として、媾和談判
も成りし一年、を費し、未だ批准をなすべ
し、世界の大同を信観す、其興味無きま
らぬ、然るも戦後世界の大事、甚し、夏
して冬、回テモワテワク、氣合漲り、社會の不安
定、人々も一々、懊悩、堪へ、こゝろ、め、加ふる
凡物、價、敬、時、中、ら、り、成、信、暴、騰、し、生

沈難を訴ふるもの尤も中等社会に多く下
層労働社会に急業四流業を起し増給を
迫り、各種の會社に其の威壓に甘従するの
已む無きに至り、労働者に却つて生活難を
免へん、中流人士ひとり困るゝの奇觀を
呈しし事

余が社長に印刷會社の一事に就て云ふは成
人と隔月一回職工職費等、二割三割の増
給を行ふべしと云ふは經營を持續し得ざる故
有候とて一年十割割の増給を行ひ其の
費款定少くは然らん幸ひは急業に

結果劇を社物價の騰昂に連なり印刷代
を増ししは結果會社の却つて前例なき好
果を見、巨款の利益を未製品日と云ふに
托し隠匿せしむべし候

半大出版部文の協会の如き余の携南
市業七皆好況と云ふ出版部は會社組織に
及らざる初年一と急業状態と云ふと氣
老し不詳義經好況と云ふし為め或は六つ
あつた文の協会の出版事業に困難を
感し以るも會社の頻りに聞かすも養金も
老爲五千円以上下達しし事、養金に一年

老翁同の打算するに五千四丈紙を
しる世文的方流七増習して後初を五
分の配布を為すことを得たり

余を近年家存の的方多く随つて筆
研み熟しむこと日々に本年一月去つたの
北城を報て寄行を請りん二百冊に海
る文人の遺書を文林海鏡の欄内に記載
をつけたる或い前此の寄行の記念紙編
輯をまご守しま向坊士の記念紙編纂
に興り或い内出采賦の自叙傳を綴す
る芽葉を焼つすものありて久しと此

間に寸珍冊子を自作する三十餘冊なるべ
かり

日々散葉せざるに喫句喫句を尋ねてさき
他を原を損すも氣味あり、出んか若くも
者を原を損つて田方を海り人念心のあ
んが贈つてくる。日ごとく書物を流しこ
ることろく、流つて贈らることろく、此年
初めたる寸珍本を採集本年一月より海
傍ハカキ干部に通ししるもさる日毎日採集
の法果し寸珍本の田方も千五る程の
多きを採集し採集をまご守りしる

あつても飾りたるより簡便の事にあつても
うろたへ償ふより高く、本年支出し給
田者ある約三千円にせしむ、爲と也、さき
るるころ、えんの日々の衛生ありしを
もの也書函は骨甚く或人と購ひ入るが
其の價の昂る勝し七毫を破るの危険
ありし所也

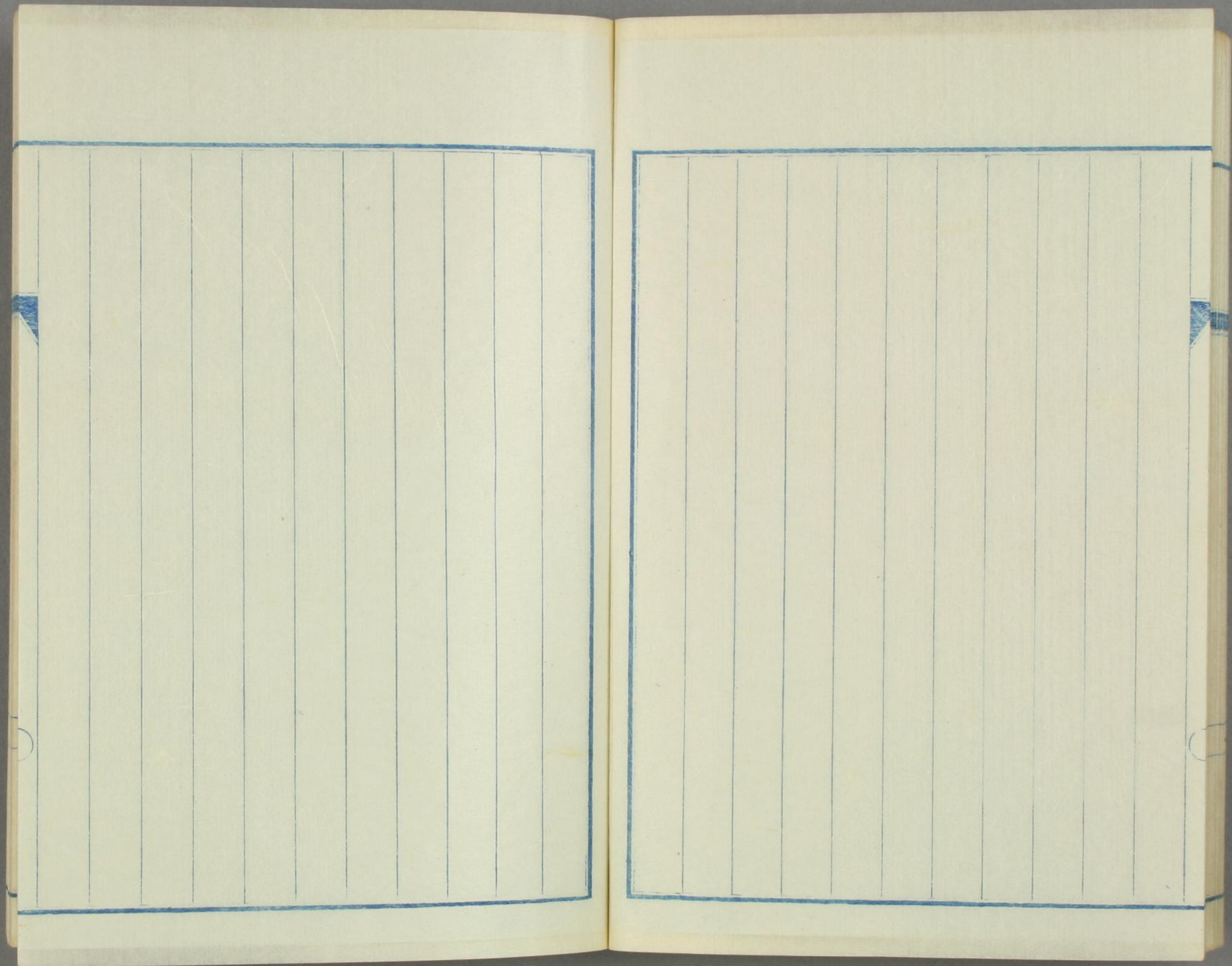
本年の大凶より北米の十一月六日漸く
了ること也、係し天壽老きしとてんた
もし難し、余在命下先立んたるを或と
北米の幸とて賜ふべき歟、余とていし生前

の大責任世此の不幸、
を得たるもの也、生家に病歿せん、
一以いと兄舞^舞悔むもし、
沈^沈斎の如き遺行届き、
憾なきを得たり

本年多くおのづから、
熱病と訪ひ、北米を憾なく訪ひし、
中朝亦とて、高野山と及、
ことえり、葬に亡父の位牌と、
あるが、遊むに、
共ころり、

る成をまけたるを以て其の式を考へんは
鏡子と記さる一事………附記を要す
余の一年の経歴を他と作りぬ斯くも弱也

大正八年大略録



以下
16 丁
白紙

○各國租稅負擔の割合
廿二年八月十七日経済院
 自治部講義板基

税種	國名	日本	米	英	佛
直接税		一、二〇	一、六八	二、四一	三、一〇
地方直税		〇、九三	二、四〇	五、九〇	二、〇六
地方消費物税		〇、五二	二、七二	八、〇〇	九、一〇
地方ノ消費物税		〇	〇、〇九	〇	二、三六
取引税及手数料		〇、〇八	一、二二	三、一八	六、一一
地方税平均		一、七七	五、五八	一、三六	一、八三
地方税平均		〇、九三	二、五〇	七、〇八	四、四三
酒税 地方税平均		二、七〇	八、〇八	二、〇六	二、七五

表中ノ数字ハ一人ノ負擔額ヲ示セルナリ

表中英佛二國ノ人口一人負擔額ニ比シテ米國人民ノ負擔額僅カニ八四餘ナルハ必克米國ノ町村ハ巨多ノ税ヲ有シコレヨリ收入スル金高甚ク多キコトヲ多額ノ租税ヲ有セザルガ故ナリ

更ニ其總負擔額を各種ノ税ニ割キハ其百分比

倒左ノ如シ

税種	國名	日本	米	英	佛
直税		七、八	五、一	四、〇	二、三
消費物税		一、九	三、五	四、五	五、〇
取引税及手数料		〇、三	一、四	一、五	二、七
合計		一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇

○住民人口土地割合

廿二年十月経府新誌

地名	住民人口 土地割合	地名	全上
英吉利	二、三	露威	四〇、〇
佛蘭西	三、四	希臘	八、〇
日耳曼	三、〇	ルーマニア	五、八
東欧亞	一、八〇	セルヴィヤ	七、二
埃土利	四、二	土耳其	九、一
匈牙利	五、〇	合衆國	四四、〇
伊太利	二、五	加拿大	四七五、〇
西班牙	七、一	ブラジル	二三二、〇
白耳義	一、三	日本	二、三

荷蘭	二、三	支那	八、〇
暹馬	四、五	暹羅	四一〇、〇
瑞典	二、四〇	埃太利	六六六、〇
瑞西	三、六	印度	四、〇
葡萄牙	五、二		

表中諸外國ノ合ハマルホ一ノ氏統計詳書ニ據リ本邦ノ
合々統計年鑑ニ見

○嘉永以降米價表

十九年七月二十日銀行通伝銀

年次	中等白米 一斗二升 斗六升	年次	中等白米 一斗二升
嘉永元年	八〇、六七	同四年	六四、〇七
同二年	七五、六二	同五年	五二、九一
同三年	五二、五四	同六年	五六、三三
同四年	八〇、二五	享延元年	七〇、八〇
同五年	六三、三六	文久元年	四〇、三三
同六年	五八、六三	同二年	四八、六九
安政元年	四五、九六	同三年	四四、三三
同二年	五四、一三	元治元年	四四、七五
同三年	四七、五〇	嘉永元年	二六、六二

嘉永二年	一五、七八	同三年	一七、五三
同三年	一五、〇六	同四年	七、五五
元治元年	二一、七五	同五年	二一、九五
同二年	一一、〇〇	同六年	七、七六
同三年	一一、一一	同七年	八、八八
同四年	一六、七二	同八年	一一、六五
同五年	二五、七〇	同九年	一一、八三
同六年	二二、五三	同十年	一一、〇七
同七年	一六、三九	同十一年	一三、一八
同八年	一四、五八	同十二年	
同九年	二〇、九〇	同十三年	
		同十四年	
		同十五年	
		同十六年	
		同十七年	
		同十八年	
		同十九年	
		同二十年	

十九年の分ハ一月より六月まで平均し...

表中嘉永元年より明治十二年に至る三十二年分の
 合算毎年の高直と安直とを平均し十二年以後の
 合算月々の相場を平均したるものなり

○嘉永以降織物相場

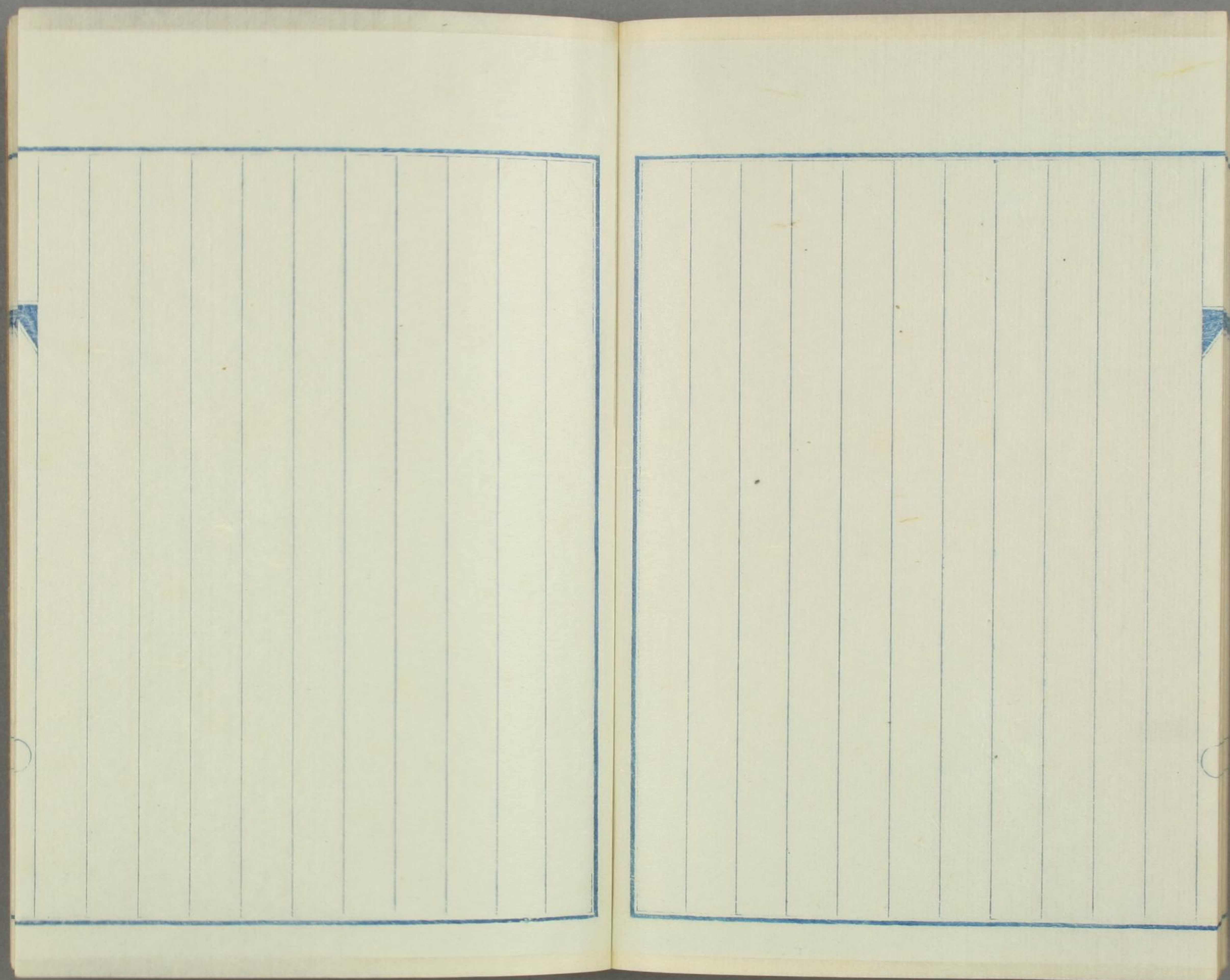
十九年十月二十日
 銀行通付録

年次	長崎通付 一疋三付	白木綿一 疋二付	年次	長崎通付 一疋三付	白木綿一 疋二付
嘉永元年	二〇	二〇	嘉永五年	二二	一一〇
二年	二〇	二〇	安政元年	二七	一四〇
三年	二二	二〇	二年	二七	一三〇
四年	二二	二〇	三年	二七	一四〇

安政三年	二五	一四〇	嘉永三年	二二	一一〇
四年	二五	一五〇	四年	二二	一〇〇
五年	二七	一五〇	五年	二七	一〇〇
六年	二九	一五〇	六年	二七	一〇〇
嘉永元年	二七	一八〇	七年	二七	一〇〇
二年	二七	一八〇	八年	二七	一〇〇
三年	二七	一八〇	九年	二七	一〇〇
元治元年	一〇六	二二五	十年	二七	一〇〇
唐老元年	一〇三	二二五			
二年	一〇	二二五			

十九年の今一月より六月までの平均

明治十年	明治十一年	明治十二年	明治十三年	明治十四年	明治十五年	明治十六年
一四七	一八三	一七五	二二三	二二九	二六五	三九五
四〇五	四〇〇	三〇六	六〇四	五八二	三九五	
十七年	十八年	十九年				
一四三	一五六	一六〇				
三三三	二九〇	三〇〇				



以下全て

白紙

